

「超重要な内申点の話」（中1から積み重ねられていきます。）

高校入試において**”超”重要な話**です。是非一読して下さい。
内申点は評定、または評定点とも言われます。その内申点について、なるべく簡潔にお話いたします。

まず、**全ての高校入試の合否判定において、高校側は入試当日までに内申点(評定)により、受験者に順位をつけ、およその合格者を決定してしまう**ということです。※(「2月〇〇日・よし、明日は入試日だ。頑張ろう。→しかし、現実、すでにほぼ合格候補者は決まっています」)

例えば、昨年度(令和3年度)の公立後期入試です。

2月14日に県内の各中学校から受験高校(志望校)に調査書(内申点記載)が一斉に送られます。後期入試日は2月24・25日です。それまでの約10日間、高校側は、県内各地からの受験者に、**内申点による順位をつけます。入試当日には、受験者は順位が決められている**のです。

熊本県の後期入試は内申点及び学力点の両方を満たしている者を合格者とします。例えば、定員40名の学科ならば、**内申点と学力点の両方で順位40位以内の者が合格者です**。出願者が100名いる場合、**最初の内申点の段階で、41位以下に順位付けられると厳しくなります**。

このように、受験当日までに、およその合格者が決まっています！

※ **熊本県では内申点は中1から中3の12月までが公立入試の査定範囲**です。中1から入試は始まっています！

次に、**内申点は全ての高校入試の選考材料になる**ということです。※科目筆記試験はないことがあります。

前期入試は学力試験がない高校も珍しくありません。※例えば、面接+調査書、面接+実技+調査書、面接+作文+調査書等。

こちらも入試当日(1月24日)までに、まず高校側に調査書(内申点)が送られて順位をつけて、合格候補者を決定します。

私立高校に至っては、3科目受験校、5科目受験校などあり、公立入試同様、試験当日までに受験校に送られる調査書(内申点)は、必ず選考材料になります。また、「中3の内申点のみ合否査定」や「内申点〇〇点以上で95%の合格」など、内申点による独特な選考もあります。

上記のように内申点は、**高校合格へ「とてつもなく重要な要素」**なのです。

そして、**その内申点を決定する最も重要な要素は「定期テストの結果」**です。「定期テスト」(中間・期末テスト)は内申点を定めるためのテストと言っても過言ではありません。

私は、従来からその内申点を非常に重く考えています。所属中学校の進度を考慮して、基礎学力の定着と定期テスト対策をコツコツコツコツやっています。そしてその積み重ねが内申点のみならず、いつのまにか「地力」となり、入試当日の筆記試験でも、大いに活躍してくれるからです。

のぞみスクール
西原教室長
吉良 伸一郎